

皆様と本院のさらなる連携強化へ 情報誌「みずき」を創刊いたしました

大阪医科大学附属病院は大阪平野の北東部、大阪と京都の中間に位置する高槻市にあります。阪急高槻市駅から徒歩約3分という至便なところに位置し、正面の阪急みずき通りには毎年4月下旬から5月初めに白やピンクの花水木の可憐な花のアーチが見られます。

この花水木は、日米「花の交歓」で桜のお返しに贈られたものであり、私たち病診連携室もこの花のように本院と地域の先生方の架け橋としてお役に立ちたいという願いを込めて、この情報誌を「みずき」とネーミングいたしました。

情報誌「みずき」は病院医療相談部のスタッフ全員が知恵と創造力を精一杯に発揮し、皆様に喜んでいただけるものになりたいと考えております。

(楠薫堂医院のお庭の花水木です)

創刊のごあいさつ

大阪医科大学附属病院 病院医療相談部 部長

花房 俊昭



この度、大阪医科大学附属病院 病院医療相談部の情報誌として「みずき」を発刊することになりました。日頃当院と連携していただいております皆様方に、当院の病診連携に関する情報をわかりやすくお伝えし、今まで以上に双方向の連携を深めていけるような紙面を作りたいと考えております。

本誌にどのような情報の掲載を希望されるかなど、私どもにいろいろな御希望をご遠慮なくお寄せください。皆様方のご意見をできるだけ取り入れ、本誌をお読みいただける方に、わかりやすく親しんでいただける紙面を作っていきたいと思っております。

誕生したばかりの本誌が、今後の皆様のお役に立てるような情報誌に成長できますよう、皆様の厳しくも温かい御指導を何卒よろしくお願い申し上げます。

大阪医科大学附属病院 病院医療相談部 病診連携室 室長

木村 文治



大阪医科大学附属病院の理念に唱えられていますように、地域連携は大学病院理念の3つの柱の一つであります。医学研究 medical science は科学として世界への貢献が必要である一方、医療 medical service は地域に根ざした活動を通し、地域の医療レベル維持向上へ貢献すべくその一翼を担うものと考えています。

患者様の紹介に関わる情報が地域連携室に集約され、その情報が個人情報保護の理念の基で二次利用され、それが地域の衛生や健康増進のための基礎データとして利用されることを願っています。

連携のスピード化、前方連携と後方連携(退院支援)の充実、紹介返事の質向上と徹底、かかりつけ医推進運動キャンペーン、地域共通クリティカル・パス作成、セカンドオピニオン外来充実などをテーマに推進していきたいと思っております。医療連携はファックスやメールといった手段を介して行われるとしても、その本質は人と人とのヒューマンネットワークであると考えます。

今後とも皆様方のご支援をよろしくお願いいたします。

待望の新総合棟「7号館」が いよいよオープンいたします

この7月、待望の新総合棟「7号館」が地上10階建て地下1階、総床面積15,000㎡、ベッド数252床の規模にてオープンいたします。

その構成は1階が内科専門外来（臓器別）、2階が総合内科外来と内科専門外来（臓器別）、3階が眼科・産婦人科外来、4階が短期入院センター、5階が消化器センター、6階が循環器センター、7階が呼吸器センター、8階がアイ・糖尿病センター、9階がアイセンター、10階がVIPセンター、それぞれの病棟です。10階のVIPセンターの特別病室には3タイプ（A・B・C）あり、すべてのタイプがバス・トイレを完備しております。なかでもCタイプは65㎡のゆったりとしたスペースが確保されています。

今後のスケジュールは、7月1日に竣工式、7月2日・3日に内覧会、7月19日に外来ゾーン、9月26日に入院ゾーンのオープンを予定しております。外観は病院とは思えない趣であり、ホテルや美術館をイメージさせるデザインです。大阪医科大学附属病院の中心的な棟として、その機能を十分に発揮させていくことでしょう。

また、この「7号館」の発展による「8号館」建設もクローズアップされており、その周辺にアメニティ環境を整備していくことで、本学および本院に新たな中核を形成する構想が生まれつつあります。これらにより、大阪医科大学附属病院は大型画像診断センターと各種センターを擁するだけでなく、地域の方々が憩える環境も提供したいと考えております。特定機能病院としての高度医療を提供することはもとより、大阪府北部を広くカバーするべく各種医療機関や保健施設との連携を強化し、地域医療の発展・充実に寄与して参ります。

この新総合棟「7号館」オープンは、そのためのスタートに他なりません。そして、私たち病診連携室もこれまで以上に連携病医院の皆様との結びつきを深め、努力を重ねていきたいと思っております。

■新総合棟「7号館」概要

1階／内科専門外来（臓器別）

2階／総合内科外来および内科専門外来（臓器別）

3階／眼科・産婦人科外来

4階／短期入院センター

5階／消化器センター

6階／循環器センター

7階／呼吸器センター

8階／アイ・糖尿病センター

9階／アイセンター

10階／VIPセンター



神経内科に関わる質問を メールで受け付けられるようになりました いつでもご遠慮なくどうぞ



大阪医科大学附属病院 神経内科 科長

木村 文治

昭和53年度本学卒業 / 神経内科全般
専門領域は頭痛・神経変性疾患

神経内科は内科の一分野としての脳、脊髄、末梢神経、筋肉の病態を内科的に診断・治療する診療科で、心の病気を扱う精神神経科や心療内科とは異なります。

主な対象疾患として内科疾患に伴うしびれなどの種々神経症状、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、パーキンソン病、重症筋無力症、多発性硬化症などの神経難病疾患、痴呆性疾患、末梢神経・筋疾患、脳炎、脳血管障害、頭痛など幅広く診療にあたっています。

治療を重視し「治る神経内科」をめざしています。特に神経難病疾患は以前から地域のニーズが高いこともあって多くの力を注ぎできました。そして、大阪神経難病医療ネットワーク幹事施設として筋萎縮性側索硬化症を含め神経難病のケアにも重点をおき、経鼻的陽圧人工呼吸器の導入、内視鏡的胃ろう造設術、喉頭形成術などを含めきめ細かく対応しています。



2000年より専門診療別内科体制となり、神経内科専門外来患者数は1日40人、年間外来のべ総数約12,000人、入院患者は常時20~30人、年間約170人の入院患者数です。地域の基幹病院として様々な神経疾患に対応すると共に、積極的に地域連携を計っています。また、大学病院の特性を生かし脳神経外科、整形外科、精神神経科、リハビリテーション科などと密に連携を取り、より高度な診療を行っています。日本神経学会より神経内科教育施設として認可を受けています。病診枠を月曜日から金曜日に設けておりますので、患者様をご紹介いただく際には、病診連携室にご相談ください。

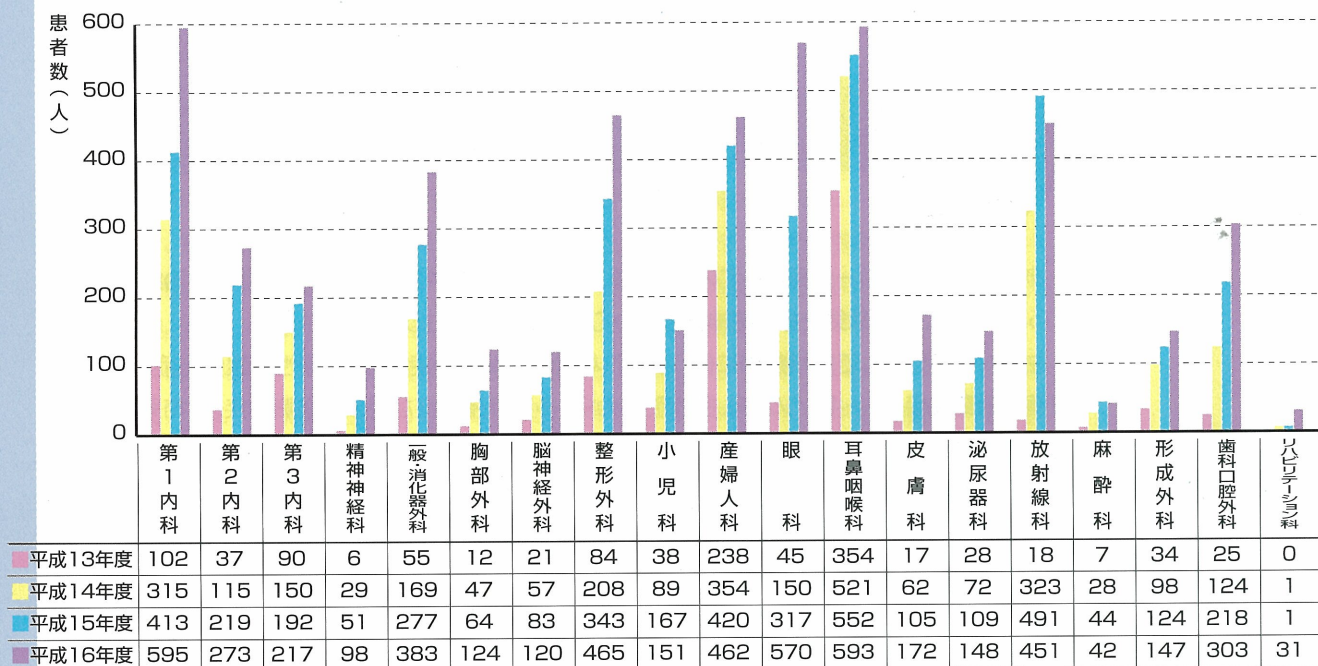
当神経内科は故茂在敏司教授の就任以来四半世紀以上にわたり活動し、関西における神経内科の先駆けとして確固たる地位を築いて参りました。今後も継続的な努力を重ね、特定機能病院としてより高度な医療を地域と密着した形で専門医療を行って参りたいと思う所存であります。

また、大阪医科大学神経内科ニューロネットとして以下のメールを開設いたしました。神経内科に関わるあらゆる質問を受け付けていますので、遠慮なくご相談ください。

Mail address; neurology@art.osaka-med.ac.jp

地域医療機関の皆様と 病診連携室のパートナーシップが 年々強くなってきています

■データ／病診連携室への患者ご紹介数



information

病診連携室のスタッフをご紹介します



病院医療相談部は平成13年5月に開設いたしました。当初病診3名、ケースワーカー1名のスタートでしたが、現在は病診7名、ケースワーカー3名の計10名の大所帯になりました。

病院ホームページをはじめ、広報全般の担当もしており、この度5年目にして初めての情報誌「みずき」を発行する運びとなりました。

とはいえ、編集は素人が初めて取り組むものであり、行き届かないことも多々あるかと思われま。何卒ご容赦いただくと共に、今後の参考としてのご意見・ご要望等をお寄せいただければ幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。